

古田土甲子園

古田土甲子園とは、古田土会計の使命感・理念に従って行動し、お客様に喜ばれた体験「伝説」を発表する場。論文審査で勝ち残った上位7人が全社員の前でプレゼンし、全員投票により優勝者を決定する年1回の社内イベントです。毎年、私の誕生日の9月12日に開催されます。今回は梅原さんと渡辺さんの発表を紹介させていただきます。1番目の発表者は、梅原翔平さんです。私は彼がこれほど成長してくれるとは思っていませんでした。彼は、今でこそ担当20件、年売上1,900万円を上げられる一人前の社員ですが、入社時は人事労務担当でした。ミスが多いため、3年目で会計担当に替わりましたが、会計でも3年間は使いものにならなかったのです。同期にも遅れをとる。自分自身の力がなさには、5年目に辞めたいと上司に言うも引き止められました。6年目に美容業のお客様を初めて担当しました。下積みが長かったのでどうしたらお客様に喜ばれるか考えたとです。彼は早朝の私の勉強会に毎回出席し、一言一句聞きもじせぬようにメモをしたり、私の本を10回以上読み返したとです。また経営計画書からお客様に伝えたとです。それを愚直に取り組んだ結果、社長様から頼りにされるようになったと発表しました。彼は人事労務が希望だったので、会計・税務は勉強していませんでした。梅原さんと決算前検討会に同席したときに、彼の説明は事務所のやり方に忠実で、会計・税法の説明も十分でした。私がアドバイスすることはありませんでした。私は決算前検討会に同席するときには、社員に事前のアドバイスをしません。担当者がお客様のことをどれだけ思い、お客様のお役に立つアドバイスや節税の方法を準備しているかを見るより機会がなごです。梅原さんは十分に準備をされていました。私は彼のおな社員が大好きです。不器用でもコツコツと努力を重ね、誠実により仕事をしようとするのが人として成長するコツです。人は誰でも仕事に行き詰まったり、悩んだりします。このときに自分はこの仕事に向いていないのではと悩んだりします。しかし、人が仕事で一人前に存在するのは10年位かかります。努力すること、忍耐することによりお客様より信頼されている梅原さんは、古田土会計のモデルです。彼のおな社員は誇りです。3番目の発表者は渡辺真那さんです。彼女は入社して3年が経ちましたが、その間に悩み苦しみました。入社して毎日勉強と仕事の日に睡眠不足、判断力が低下し、自分を責めて自分を追い詰めて行き、いつもマイナスに考えるようになって、会社に行こうにも行けなくなっていました。そんな時に吉田専務から電話があり、「今は休みなさい。仕事はいつでもできる。真那さんは一人かいる」と励まされ、仕事をBコースの総務になりました。でも彼女は、総務ではなかなかなお客様のお役に立てないとお悩んでいられたとです。そんな時、彼女がお茶席にいらたときにお客様が私の本を見ていたのに気づいたとです。お茶と一緒に私の本を冊持っていったとです。そしてお客様に「よく気付いたね」と大変お喜ばれたとです。何気ないことですが、お客様に喜ばれたという彼女の気づきか、お客様に喜ばれ、お客様に喜ばれたことが自分の気づき、感動になりました。渡辺さんは、今はとても充実しています。暗闇の先に希望が見えてきた。自分にして欲しいことを人にしてあげて、自分にしてほしいことを他人にしてはいい、困ったときにはとあるが真那さんに相談してみようという総務になりたい、古田土会計に感謝している、とも言ってくれました。

この他にも西川さん、江崎さん、勝田さん、辻野さん、柴川さんが発表しました。いずれも感動的な発表でした。社員を育てるのは会社ですが、社員は私の言うことよりもお客様からの言葉で傷ついたり、自信をなくしたりますが、何よりもお客様からのお褒めの言葉や感謝の言葉、ありがとうの言葉で元気づき、自信が成長していきます。お客様どうが、社員を育てるという深い愛情で、あるときは厳しく叱って下さり、そして誉めて下さり、お願い致します。私のお客様の社員を育てます。